

**多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル**

2010年 10月 26日

| | |
|-------------|----------------------|
| 派遣者氏名（専門分野） | 旗手 瞳 （文化形態論世界史講座東洋史） |
|-------------|----------------------|

| | |
|------|-----------------------------|
| 派遣期間 | 2010 年 9月 1日 ～ 2010年 9月 10日 |
|------|-----------------------------|

派遣研究機関

| 国 | 都市 | 訪問機関 |
|------|------|------------------------|
| イギリス | ロンドン | British Library（英国図書館） |

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

British Library（英国図書館、以下 BL）を利用するには、まずどの部門においても本人の顔写真入りの利用者証明書（Reader Pass）が必要である。証明書のスムーズな発行のためにも、あらかじめ BL の HP から事前登録（Pre-registration）を済ませておくことが推奨される。同 HP は、証明書発行のために必要な証明書類の案内も行っている。

現在、BL では当人であることを証明するために、2 種類の証明書を持参することが義務づけられている。イギリス以外の国籍を持つ外国人の場合は、まずパスポートが一つの証明書となる。そしてもう一つは、事前登録の際に入力した現住所に、住んでいることを証明できる書類である。これは運転免許証、あるいはガスや水道料金といった公共料金の納入書などが該当する。日本の学生の中には、住民票を置いている市町村と現住所が異なるケースがままあるので、持参する証明書に合わせて事前登録時に住所を登録する必要がある。

基本的に利用者証明書が入手できれば、どの部門でも史料の閲覧は自由にできる。ただし今回、東洋史から参加した二名の院生（石川・旗手）のように、自由な閲覧が制限されている史料の場合は、さらに事前に済ませておくべき手続きが必要となる。

BL が所蔵する敦煌文献は、現在、IDP（国際敦煌プロジェクト）の HP にアップされている申請専用のメールアドレスから申請ができる。申請者は、最低、一ヶ月前にこのフォームから閲覧を希望する文書のリストを届けておかねばならない。メールは 2010 年 7 月の時点では、IDP の創始メンバーの一人で BL に拠点を構えている Susan Whitfield（スーザン・ウィットフィールド）博士の元へ送られるようになっている。ただし博士は内外で極めて精力的な活動を行っているため、BL に不在のことが多い。自動メールでその旨を報せる返事がもどってくる場合は、直接、各言語の専門スタッフ（敦煌文献は、当時の中央アジアで話されていた様々な言語の古文書を包含している。BL では、漢語、チベット語、コータン語／イラン語、トルコ語で各一名ないし二名のスタッフを置いて対応している）へ、メールを送る必要がある。彼らから申請許可のメールが届けば、基本的に調査は O.K.となる。

必要な準備は、およそ以上のようなものであるが、実際に自分と関連する部門で調査を行った経験者に事前に話を聞いておくことも重要である。調査のみならず、滞在中の生活に必要な知識やまた失敗談などで、参考にすべき点は多い。何より、出発前の不安を軽減できることは、調査を進める際の精神衛生上、重要な点だと本派遣者は調査を終えて感じている。